

新年おめでとうございます

皆様にとって新年が良い年でありますように

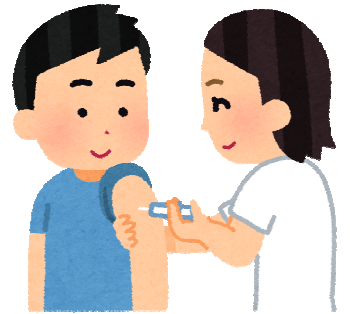


施設長 吉田憲一



さて昨年2020年はコロナに開けコロナで終わる一年でした。中国武漢の感染爆発、都市封鎖、横浜港のクルーズ船の集団感染など、何かずっと昔のような気がしますが実はまだ10ヶ月ほど前の出来事なのです。ワクチン

開発が求められ欧米の数社が開発期間1年未満という驚異的速さで開発に成功一部の国では既に接種が始まっています。そこで今回はワクチン(特に人類初のワクチン接種である種痘)について少しお話をしようと思います。歴史上初めてのワクチン接種は天然痘の種痘で、1796年イギリスのジェンナーによってなされました。彼は、牛を飼育している地域で牛痘(人の天然痘に類似)に感染した人が天然痘にかからない、或いはり患しても重症化しにくいことを知り牛痘の膿を用いて種痘を行なった。当初周囲の理解が得られず、まず自分の子供に接種したのは有名です。それから徐々に世界中に広まっていくわけですが、実はジェンナーの牛痘法以前に世界各地で(もちろん日本でも)人天然痘の膿のかさぶたなどを用いた種痘(人痘法)がぎょうはれ行われていました。ただ残念ながら効果が不確実で且つ、逆に重症化する症例が見られ、徐々に牛痘法に代わっていきました。ただ牛痘法でも、ヨーロッパから、まず種株を輸入しなければならないのですが数か月の船旅に



耐えられない事が多く、最終的にはジャワからの輸入で有効な種株を入手したようです。日本での普及も多く多くの医師の献身的な努力が知られています。貴重な種株を安定的に継代維持する技術が確立されておらず一番確実なのは人から人へと植え継ぐ方法でした。1842年福井の医師笠原良策は、京都から福井に種株を運ぶ為冬季に雪深い栃ノ木峠を子供達など10人余で突破し故郷に種株を持ち込むことに成

功しました。このような先人の努力で、明治維新より前に日本では種痘が普及していきました。種痘をすると牛になる、角が生えるといった偏見風評にも大変苦勞したようです。コロナワクチンについても、色々な考えが、個々人にあると思いますが、基本的にはワクチン接種に協力を皆様をお願いいたします。





クリスマス会2020



2020年12月19日にクリスマス会が行われました。施設長による開会の挨拶の後、早速職員バンドによる南米の曲が演奏されました。カラフルな民族衣装をまとった五人チームは、南米のケーナ、



チャランゴ。サンポーニャと呼ばれる楽器を使い演奏してくれました。とても陽気な音楽が流れて、利用者さんたちがうっとりしていました。

第二演目は職員によるマジックショー。♪

チャラ♪で登場したミミとモモ姉妹が愉快的マジックを披露してくれま



した。最後に空中浮遊や体操選手の脱出マジックで、ご利用者様が「面白い」と爆笑していました。

最後に職員のバンドの伴奏でご利用者様と一緒に「幸せなら、手をたたこう」「聖この夜」「ふるさと」楽しく歌いました。

今年はコロナ禍で、外部からのボランティアグループを招待できない中で、

職員たちは楽しいクリスマス会の為に一所懸命練習をしました。ご利用者様からの「とても楽しかったよ」という言葉を励みに来年も楽しいクリスマス会を開催できるように職員一同頑張っていきたいです。



2階介護 納所・王

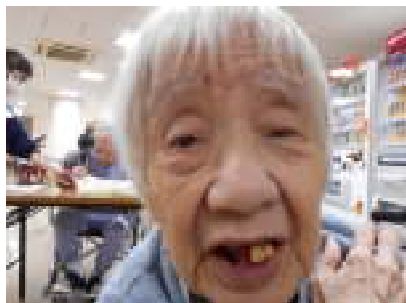


芋煮会でアツアツのホクホク



11月21日に今年で2回目となる芋煮会を行いました。『芋煮会って?』と思われる人も居られますよね。芋煮会とは簡単に言うと里

芋を煮た鍋料理で、仙台では味噌仕立て山形では醤油仕立てが定番のようです。ケアポートの芋煮は醤油仕立てにしました。





今年はコロナの影響で全員の人に見て頂く事は出来ませんでしたが、何人かには大きな鍋で作っている所を観て頂きました。勿論ですがご利用者には出来たての芋煮を鍋から取り分け熱々の芋煮を食べて頂きました。皆様は取り分けた芋煮をフーフーと息をかけながら普段とは違う雰囲気も一緒に

味わって頂け私達職員も嬉しく思うひと時を御一緒させて頂きました。

来年以降コロナが落ち着いた時はご家族もケアポートの芋煮会を見に来て下さい。その時はアツアツのホクホクを御馳走しますね。

3階介護 村越



おせち相撲・ケアポ場所



はっけよーい。

今年のケアポ場所、中央に鎮座するは祝席の横綱・“御赤飯”。太刀持



ちと露払いに“いくらなます”と“栗きんとん”を従え、堂々と弁当箱への土俵入り。“赤魚の塩麴焼き”と“海老の旨煮”が大関の貫禄を見せれば、次いで関脇・“伊達巻”と小結・“こうや豆腐”が安定した技量で魅了する。小兵の“昆布巻き”も奮闘し、要所を締めるは“はじかみ生姜”の行事軍配。最後は“赤出汁なめこ”の華麗なる弓取り式で元日の取組はこれにて終了・・・。



何のことかさっぱり分からない、と言う方、大変申し訳ありません。毎年恒例のおせち紹介も今年で 6 回目、少しは気の利いた文章を、と思ったのですが完全に私の独断と偏見（と少しの妄想）に満ちた趣味的記事になってしまいました。（言わずもがな、私は大相撲が大好きです）とはいえ、元日の朝から厨房職員が一生懸命作ったおせち弁当はご利用者にも好評だったようで、皆さんペロリと召し上がってくださいました。新型コロナウイルスの影響で様々なことが変わっていく今の世の中ですが、日本の伝統である大相撲と同じように、ケアポート・田谷のおせちもずっと変わらず受け継がれていけば良いなと思いながらお届けした、今年のおせち弁当でした。



栄養科主任 江崎



ミニミニクリスマス会

今年のクリスマス会はデイケアの通常のプログラムの中のレクレーションの時間帯に行うミニミニクリスマス会でした。毎年恒例の職員によるハンドベル演奏を取り止め、職員が行う、クイズダービー、クイズロシアンルーレット（職員の誰が勝利するかをご利用者が予想し当てるクイズ）ビンゴゲームを行いました。ビンゴゲームでは早く当たった方から日ごろの感謝の気持ちを込めてクリスマスプレゼントをお渡ししました。今年は例年行っていたイベントを全て縮小して行ったり、取り止めたりと思うような活動が出来ませんでした、それぞれプレゼントを受け取られた時に笑顔が見られて良かったです。来年のクリスマス会はコロナウイルスが収束している事を期待し、ハンドベル演奏に合わせながらの皆さんの歌声が聞けるといいです♪



施設全体に美しい歌声が響き渡るよう、今からボイストレーニングをしていきましょう！！

通所介護副主任 小川



主役は利用者様！！

今年の干支の壁画作りは例年とは異なり、コロナウイルス感染拡大防止対策を考え、1枚の壁画を16分割に分け、密にならないよう個別で作業を行えるように工夫しました。今年の壁画で例年と異なるのはそれだけではありません。色や、貼り絵の材質などのレイアウトは毎年職員がある程度決めていましたが、今年はご利用者のアイデアが含まれた作品となっています。写真をご覧ください。牛の背負っている俵部分や体部分のご利用者がご自宅で不要となった帯や布を持参された物を貼り絵にしました。デイケアからご自宅に帰られてからも、この壁画作りの事を考えてられていた事、良い作品に仕上げたいという気持ちに私たち職員は嬉しく思い感激しました。集団作業の中の壁画作りには主に指先のトレーニングを目的としていますが、今回これからの作業ではご利用者の思考力や想像力、知恵や経験などを大いに引き出せるような土台作りを職員が提供していかなければいけないなと気付かされました。ご利用者同士で個々のアイデアを出し合い、完成に向け取り組まれた作品には完成した時に大きな達成感が得られるはず。作品作りの主役はご利用者です！！来年もたくさんの作品を作りあげていきましょう。

通所介護副主任 小川

